

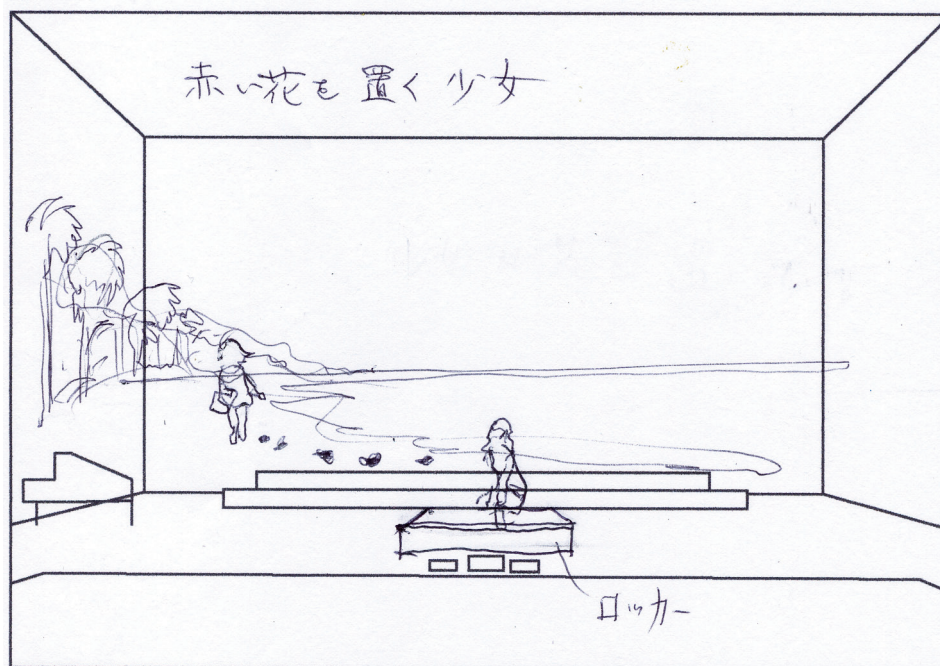
若いお母さんが幼子をあやしている。

白い少女は一人ぼっちでいるおじいさんが少女に自分の書いた本を語りだす。
(東北弁風)

『本を読んでいるおじいさんが震えている「どうしたの？」少女は心配する。

「あまりこの話はしたくないんじゃないかね…」

「オレが死んだら、みんな忘れちまって、また同じことやるんかな」



<南の島>

漂流するAの入った白い箱が砂浜にたどり着く。

少女が砂浜に赤い花を置いている。

Aは箱から出てその花を頼りに歩き出す。